

第 137 回沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部会議

議事概要

日 時：令和 3 年 12 月 17 日（金）15：30～16：30

場 所：県庁 6 階 第 1・2 特別会議室

・会議の概要

<報告事項>

◇ 米軍基地内における新型コロナウイルス感染症患者の発生状況及び新たな変異株に対する対策について、総括情報部及び知事公室から報告があった。

1 参加者

玉城 知事、謝花 副知事、照屋 副知事、島袋 政策調整監、金城 知事公室長、池田 総務部長、儀間 企画調整統括監、普天間 環境企画統括監、小林 県警警備部長、大城 保健医療部長、名渡山 子ども生活福祉部長、下地 農政企画統括監、島袋 土木建築部長、嘉数 商工労働部長、宮城 文化観光スポーツ部長、大城 会計管理者、佐次田 教育管理統括監、玉城 病院事業統括監、棚原 企業局長、諸見里 医療企画統括監、糸数 保健衛生統括監、高山 政策参与、山川 北部保健所長、国吉 中部保健所長、宮里 南部保健所長、テレビ会議システム利用：木村 宮古保健所長、比嘉 八重山保健所長

2 報告事項

(1) 米軍基地内における新型コロナウイルス感染症患者の発生等について

(2) 新たな変異株に対する対策について

➤ 総括情報部から米軍基地内における新型コロナウイルス感染症患者の発生状況及び新たな変異株に対する対策について報告。

◇ 県内の状況について

✓ 12/15 ごろから米軍基地内での陽性者数が増えてきており、12/15 から 12/17 にかけて、29 名の陽性者が確認されていた。

✓ 沖縄県内の新規陽性者数（人口 10 万人あたり）は 1.82 人、病床使用率は 1.4%と落ち着いているが、12/16 に基地従業員 2 名の陽性が確認されている。

- ✓ 地域別で見ると、中北部で家庭内感染や事業所内での感染事例が確認されている。

◇ L452R（デルタ株）陰性の事案について

- ✓ 12/16 に L452R（デルタ株）のスクリーニング検査結果が陰性の事例が確認されたとの報告があった。
- ✓ 当該事例についてはオミクロン株の可能性があることから、ゲノム解析を行ったところ、12/17 にオミクロン株であることが確認された。
- ✓ 当該陽性者はキャンプハンセン勤務の米軍基地従業員であり、同基地で発生しているクラスターとの関連性について調査中である。
- ✓ 当該事例について保健医療部内での情報共有、濃厚接触者の取扱いについて確認を行うとともに、厚労省への報告を行っている。
- ✓ 当該患者は重点医療機関で入院加療中であり、一部の濃厚接触者についても PCR 検査を実施しているところである。
- ✓ また、当該陽性者のほかに基地従業員 2 名が L452R 陰性となっており、ゲノム解析を実施しているところである。

◇ 今後の対応について

- ✓ L452R 陰性が確認された 3 名の濃厚接触者について PCR 検査を実施する。
- ✓ 基地従業員全員に対する PCR 検査を実施する予定となっている。
- ✓ 県内医療機関へのオミクロン株患者受入の要請を実施する。
※個室での隔離対応を要請
- ✓ 今後に加え、北部及び中部の医療フェーズを 1 から 2 へ引き上げる。
- ✓ オミクロン株の濃厚接触者について、原則宿泊療養施設での待機を要請する。
- ✓ 濃厚接触者が増えた時に備えて、もう 1 棟の宿泊療養施設を準備している。

- ✓ オミクロン株患者搬送用の専用車両を準備し、搬送を実施する。ただし、本人が自家用車を運転可能な場合は、自家用車で移動していただくことも検討中である。

- 知事公室から在沖米海兵隊のコロナ患者急増について報告。
 - ◇ 在沖米海兵隊からの報告について
 - ◆ キャンプハンセンの状況について
 - ✓ ここ数日、キャンプハンセンで多数の新型コロナ陽性者が確認されている。(12/17 報告分 70 名、全体で 99 名)
 - ✓ キャンプハンセンの陽性者のほとんどが、2つの部隊のいずれかに所属している。
 - ✓ この陽性者はアメリカ本国の同じ場所から移動してきた者である。
 - ◆ 陽性判明の状況について
 - ✓ 行動制限 (ROM) 下において、「症状を呈した」または「濃厚接触者として検査」した際に陽性判明。
 - ✓ 1名については行動制限外で判明
 - ✓ 陽性者は全員ワクチン接種をしており、ブレークスルー感染と考える。
 - ◆ 海兵隊の対応状況について
 - ✓ 陽性者の追跡調査を行っている。
 - ✓ 地域住民との接触は確認されていない。
 - ✓ キャンプハンセンについては、ワクチン接種の有無に関わらず、マスクの着用が義務づけられることになった。
 - ✓ これから内部で今後の対応を検討する。
 - ◇ 県から在沖米軍側に要望した事項について
 - ✓ 感染者増加への早期対応のためにも、ゲノム解析を実施していただき

たい。もし、検査設備の関係で検査が難しいのであれば、日本政府とも相談して実施の検討を進めてほしい。

- ✓ 基地内の健康保護態勢（HPCON）のレベルを強い措置にさせていただきたい。※なお、在沖米軍から健康保護体制のレベルを第3段階へ引き上げたとの報告あり。
- ✓ また、少なくともキャンプハンセンの関係者は、基地外への外出禁止などの措置を取っていただきたい。
- ✓ 外務省沖縄事務所、沖縄防衛局へも本件に関する早期の対応を要望した。

◇ その他の在沖米海兵隊側からのコメント

- ✓ 在日米軍施設においてゲノム解析をすることは、解析設備がないことから対応することはできない。必要であれば、アメリカ本国での検査となる。
- ✓ 日本側に検体を提供してゲノム解析するのは、個人情報等の規則により難しい。

（報告（1）及び（2）に関する発言等）

- ✓ 米軍基地内の陽性者数について、総括情報部資料の人数と知事公室資料の人数が違う理由について質問があった。

→総括情報部から、12/17の陽性者数について、海軍病院から提供された情報と在沖海兵隊から提供された情報に違いがあるため、それぞれの資料の数値が異なっていると回答。なお、海軍病院の情報は全体を示すものではないこと及び在沖米軍全体の数値のとりまとめは在沖海兵隊が行っていることから、在沖海兵隊の報告にあった70人が正確であると思われることを説明。

- ✓ 今回、L452R（デルタ株）陰性が確認された3名は接点があるのか質問があった。
→総括情報部から、当該3名はキャンプハンセン勤務であるものの、接触があったことまでは確認できていないと回答。
- ✓ オミクロン株の発生が確認されたことに伴い県民や経済界へ注意喚起を行う必要があるが、どのような予定になっているか質問があった。
→総括情報部から、今回の本部会議終了後に知事会見を行い、基地関係者からオミクロン株が確認されていること及び改めての感染防止対策の徹底が必要であることをコメントすると回答。
- ✓ 感染拡大を防ぐため、政府または米軍に対し対策の強化を申し入れるべきとの意見があった。
→総括情報部から、米軍からの感染状況等に関する情報提供も不足していることから、政府及び米軍に改善を働きかける必要があることを説明。
- ✓ L452R（デルタ株）陰性が確認された方の接触者について質問があった。
→中部保健所長から、現在、L452R（デルタ株）陰性の方に対し、接触者の聞き取り調査を行っていることを説明。
- ✓ 基地従業員を対象にPCR検査を実施することに関し、沖縄防衛局等の関係機関に対する調整状況について質問があった。
→総括情報部から、今回の本部会議終了後、沖縄防衛局等の関係機関に対する説明及び協力依頼を実施すると説明。
- ✓ 八重山で宿泊療養施設の数不足の恐れがあることから、増設の検討が必要との意見があった。
→総括情報部から、八重山での宿泊療養施設を増設について、現地の宿泊施設と調整を行っていることを説明。

- ✓ オミクロン株の流行は刻々と変化する可能性があり、それに伴い県の対策も変わっていく可能性があることから、県民に対し、県からの情報を注視するよう伝える必要があるとの意見があった。

3 その他

特になし。

4 閉会